

産業人 烈伝

不況で営業をつらいと思ったことは一度もない。命を守る商品に世に供給する仕事にやりがいを感じている。しかし、命を守るだけでは不十分で、真の安全ではないと考えていた。

胴ベルト型の安全帯は落下時に衝撃が胴に集中し、腰を痛めることもある。作業者が命を取り留めても、その後の仕事に影響があったら、安全を守ったとは言えない。このため、1990年代からハーネス型の安全帯の普及に取り組んだ。

ハーネス型は墜落時の衝撃を肩や胸、腰に分散させる構造で、安全性が高い。ただ胴ベルト型に比べて装着に手間がかかるため、普及が遅れていた。このため、改良を重ね、装着しやすく作業者の動きを妨げにくい形状保持型を開発した。受注が伸びつつあるため、増産に備えて

常に正直であれ、

サンコー・室井良樹会長^①

13年に岡山県に縫製子会社を設立した。これからもハーネス型を積極展開する。

高品質の製品はもちろん、人として信頼されることも重要だと考えている。社員には「顧客にウソをついてはいけない。常に正直であれ」と言っている。口が達者なだけではだめだ。私は口下手なりに信頼されるよう努力し、顧客との関係を構築してきた。

「正直であれ」というのは、自分自身や企業も同様。税金を払い渋る中小企業もあるが、当社は毎年適正な納税を続けている。企業は納税義務を果たし、社会に還元しなければならぬと思うている。

体は異なっても心は同じという意の「異体同心」が信条。社員に隠し事をせず、業績などの情報の共有化を心がけている。また社員持株会制度を採用し、賞与額などの決定の背景も明かしている。近年、業績は夏と冬以外に期末賞与などを支給できるぐらい好調に推移している。ただ不況に備えて内部留保し、中長期の報酬を安定化させることも必要。業績が良いからといって利益のすべてを分配しないで、万一に備えて留保しておきたいことも社員に説明し、理解してもらっている。

12年の創業65周年を機に会長となり、社長職を長男に託した。社員も含めて若返りしており、時代も変わった。多くのことに口を挟むつもりはない。若い人たちが自由闊達に議論し、方針や計画を決めたい。ただ、危うくなりそうな時に話を聞いて助言し、支えてあげられる存在でありたい。安全帯のように。



ハーネス型を積極展開する室井会長
(13年10月に設立した縫製子会社)